

令和5年第3回市議会定例会が開催されるに当たり、市政の諸課題をはじめ提案いたしました議案について、その概要を御説明申し上げます。

まず、この度、本市市議会議員として20年の長きにわたり活躍してこられた有馬茂人議員が、全国市議会議長会及び北信越市議会議長会から栄えある表彰を受けられました。市民を代表して心から敬意を表し、お祝い申し上げます。

さて、私が敦賀市長に就任し、堤宗和氏を副市長として選任するとともに、人口減少問題等の課題に対応するための組織改正を行い、市政を運営していくための新たな体制を整えました。今後も、必要に応じ組織体制等の見直しを実施していきます。

来年春の北陸新幹線敦賀開業をはじめ、本市は大きな転換期を迎えています。こうした中、市民生活の豊かさの向上や市勢の発展に向け、各種の政策を組み合わせ、連動させることで好循環の大きなうねりを生み出し、敦賀の「あたらしいステージ」を実現します。

この思いを具体化するため、本市の総合計画を見直すことといたします。

新たな計画においては、環境の変化に柔軟に対応できる機動性を持たせるとともに、市が何を目指し、そのために何をするのかが市民の皆様や現場の職員にも分かりやすい計画にします。

次に、当面する市政の課題とその対応について申し上げます。

初めに、エネルギー・食料品価格等の物価高騰対策です。

昨年から続くエネルギーや食料品等の価格高騰が、市民の生活や事業者の経営に大きな影響を及ぼしていることから、緊急的な対策を講じます。

まず、低所得世帯への支援については、令和5年度の住民税非課税世帯等に対し3万円を給付する補正予算を専決処分し、来月下旬からの支給開始に向け準備を進めています。

また、「学校給食物価高騰対策事業」等により、給食における食材費の高騰分に対して支援を行い、保護者の経済的負担を軽減します。

さらに、中小事業者支援については、電子クーポン「つるが割」の発行事業を実施し、市内での消費喚起を図ります。

今後も、県及び関係機関と連携し、物価高騰への対策に取り組みたいと考えています。

次に、「地域経済のあたらしいステージ」に向けた取組について申し上げます。

北陸新幹線敦賀開業まで10か月を切りました。

本市が整備を担う新幹線駅前広場については計画どおり進捗しており、新幹線開業と同時に供用開始できるよう、引き続き工程管理に努めます。

次に開業機運の醸成の取組です。

先月、民間団体が主体となり、金ヶ崎周辺や敦賀駅前において、新幹線開業に向けたイベントが行われました。今後も、開業200日前、100日前や開業当日のイベントが民間団体により企画されていますので、これらを支援する事業を行います。

また、先月26日に開催された新幹線敦賀開業まちづくり推進会議において、誘客キャッチコピー「つるが、発見！」のロゴマークが決定しました。このロゴマークは、市民の皆様の活動に広く活用され、新幹線敦賀開業を共にPRいただきたいと考えています。

さらに、新幹線開業時の観光客の受入れ体制を向上させるため、敦賀観光協会については、アクアトム1階にある現在の事務所を、氣比神宮に

近いカグヘル2階へ移転します。新たな事務所は観光案内所機能を備えており、観光客の利便性向上と、本市の魅力発信の強化に繋がることを期待し、その経費について補助します。

金ヶ崎周辺の整備については、官民連携による賑わい施設の整備に向け、現在、民間事業者及び福井県と、エリア全体のデザイン計画についての協議を重ねているところです。本計画に関連し、日本貨物鉄道株式会社の用地の取り扱いを検討するため、用地内の物件移転補償費の算定業務に係る経費を計上しました。引き続き、同社との協議を進めていきます。

また、北陸新幹線敦賀開業を呼び水に、敦賀産品や特産品を育成するため1次産業を活発化することも重要です。今回は水産振興について、「敦賀真鯛」等のブランド魚の販路拡大を目指し、水産バリューチェーンを構築する事業に対し、実施する協議会への負担金を計上しました。今後とも本市ブランド魚の県内外への流通の活発化や、知名度向上に努めます。

さて、次に敦賀港の振興に関連する事業です。鞠山北岸壁の多目的クレーンを県が新たに整備するための費用に係る負担金を、今回の補正予算で計上しました。今後も引き続き県と連携し、敦賀港の港湾機能が更に向

上するよう取り組みます。

次に企業立地については、今回の補正予算で、市の産業団地等に進出された企業に対する立地促進補助金を計上しました。今後、本市の産業振興や雇用の拡大に大きく寄与していただけるものと期待しています。

また、福井県が検討を進めている新たな県営産業団地の整備について、市内での調査等にかかる経費の負担金も計上しました。

さて、原子力政策については、去る2月10日に「GX実現に向けた基本方針」が閣議決定され、先月31日にはこの基本方針に関連する「GX脱炭素電源法」が成立しました。

「基本方針」の中で、原子力は、エネルギー安全保障に寄与し、脱炭素効果の高い電源と位置付けられており、再生可能エネルギーとともに最大限活用する方針が明確に示されたことは大変意義深いものであると考えています。今後も立地地域が原子力政策に協力していくためにも、基本方針等で示した取組を着実に実行していただくことを強く望みます。

特に、敦賀発電所3，4号機の計画を抱える本市において、新たな安

全メカニズムを組み込んだ次世代革新炉の開発・建設に向けた取組は、極めて重要となります。国及び事業者におかれましては、次世代革新炉への建て替えに向けた道筋を示し、具体的な取組を強力に進めていただくことを期待します。

次に、「子育て支援のあたらしいステージ」に向けた取組について申し上げます。

現在、国や県において、新たな子育て支援の検討や取組が進められていることから、これらと連携しながら、本市の子育て環境の充実を図ります。

また、全国的にも喫緊の課題である少子化対策については、「人口減少対策室」を中心に取り組み、出生数の減少の原因と考えられる婚姻数減少まで遡って対策を講じます。移住を促進する施策とも連動させ、人口減少対策を総合的に推進します。

今回、子育て環境の充実についても諸事業を進めます。

まず、産後ケア事業では、授乳相談や育児相談等を行う通所型・訪問型のサービスについて、国の支援事業実施要綱の改定に合わせ、利用者が

必要なときにサービスを利用できるよう制度の見直しを行います。

次に、保育園等における保護者や保育士の負担軽減を図るため、使用済みおむつの自園処理を推進します。

また、要保護児童等の支援については、地域で子どもを見守り、支援できる体制の強化を図るため、居宅訪問や食事の提供等を通じて子どもの状況把握を行う民間団体に対して支援を行います。

デジタル教育の推進については、国の「リーディングDXスクール事業」の拠点校として、市内小中学校のうち3校が指定を受けました。今後、指定校に対し、ICTを活用した各学校の取組を支援するとともに、効果的な教育実践例については、他の学校へ横展開を図ります。

施設整備については、老朽化した給食センターの施設の更新に着手することとし、今回、施設の基本計画策定に係る経費を計上しました。

また、こどもの国については、「こどもの国リニューアル基本構想」を踏まえ、リニューアルに向けた基本計画を策定する事業費を計上しました。

次に、「市民の安心、身近な生活のあたらしいステージ」に向けた取組

について申し上げます。

全ての市民の日々の生活が、豊かなものになるよう「安心して住む敦賀」、「楽しく住む敦賀」の実現を目指します。

進展する高齢化社会に対応し、市民誰もが安心して本市で暮らし続けることができるよう、生活環境の向上に取り組みます。

まず、運転免許返納後の高齢者や障がい者といった、いわゆる交通弱者の買い物や医療機関への移動手段を確保するため、既に各地で導入されつつあるデマンド型コミュニティタクシーの運行を含めた地域公共交通計画の策定に着手します。

次に、令和3年4月に施行した「敦賀市手話言語条例」及び「敦賀市障がいのある人の情報取得・コミュニケーション支援に関する条例」に基づき共生社会を実現するための施策として、手話講習会の開催や遠隔手話通訳サービス導入に係る経費を今回の補正予算に計上しました。

また、敦賀市立やまびこ園については、入居者の高齢化に伴う施設の個室化やバリアフリー化を含めた大規模改修に着手していますが、今回の補正予算では、本体の改修工事に先立ち、増築予定地に所在する作業所等に移転するための経費を計上しました。



次に、空き家対策については、市内全ての空き家の現地調査を実施する経費を計上しました。調査結果は、来年度に予定している敦賀市空き家等対策計画の改定の際に、基礎資料として活用します。

市立敦賀病院については、去る3月23日付けで、厚生労働省から「がん診療連携拠点病院」の指定を受けました。この指定に合わせ、がんの診断等における医療の質の向上を図るため、診療科目に病理診断科を新設することとし、今議会に条例改正案を提出しました。

さて、予算案以外の案件及びその他の議案につきましては、それぞれ議案書に記載の理由に基づき提案しました。

また、本市に寄せられました寄附金品につきましては、別紙お手元に配布のとおりです。その御厚志に対し、市民を代表して厚く御礼を申し上げます。

以上、今回提案いたしました予算案などについて御説明申し上げます。

何卒慎重に御審議をいただき、妥当なる議決を賜りますようお願い申し上げます。